

多文化共生の鍵となるのは「やさしい日本語」なのではないか

山形県立寒河江高等学校



1. 探究の動機

外国人と関わるテーマを考えたとき、始めは英語を使って交流しようとまとまった。しかし外国人は英語より「やさしい日本語」を求めていることを知った。それを使えば多文化共生が実現するのではないかと思ったから。

2. 仮説

山形の日本人に「やさしい日本語」を広めることで多文化共生が実現する。

3. 調査方法

- ① インターネット
- ② やさしい日本語を使ってみる
- ③ やさしい日本語のガイドブックの作成

① やさしい日本語とは

文法や言葉のレベル、文章の長さに配慮し、わかりやすくした日本語のこと。

外国人や幼児、ご高齢の方と話すときに便利！
1995年の阪神・淡路大震災の際、外国人に避難指示などが伝わらなかったことで「やさしい日本語」が生まれた。

やさしい日本語の作り方

- ・文末は「です・ます」
- ・短く区切る
- ・具体的に言う
- ・簡単な言葉に言い換える

「ハサミの法則」

はっきりいう
さいごまでいう
みじかくいう

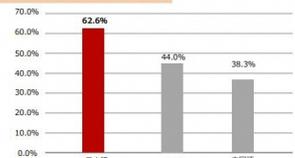
<やさしい日本語の答えは1つではありません>

② やさしい日本語の重要性

日本に住む外国人が日常生活に困らない言語 (母国語以外)

英語44.0% < 日本語62.6%

外国人が日常生活に困らない言語

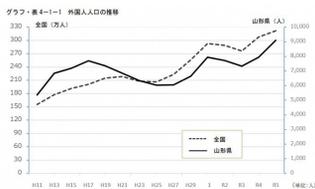


やさしい日本語を使うことでさらに外国人は日本語が聞き取りやすくなり日常生活が過ごしやすくなる

~~外国人×英語~~

「外国人が希望する情報発信言語」

やさしい日本語 76%



山形県に住む外国人 (2023)

- 1位 ベトナム人 29.4%
- 2位 中国人 20.1%
- 3位 韓国人 15.0%

年々外国人が急増している

約6割がやさしい日本語を知らない



約7割がやさしい日本語を望んでいる



もがみフーズでの日本語教室

ベトナム人の技能実習生の方と交流

→日本語の学習歴が長い人ほどやさしい日本語が通じた
→ベトナムと日本の文化の違いを知った

ex) ベトナム人は驚くとき **舌打ち** をする
やさしい日本語を使ってコミュニケーションを取れば誤解する可能性を減らせる。

チラシ配布

- ・生徒が外国人にやさしい日本語を使う機会を設け寒高祭に外国人をお呼びした。
- ・やさしい日本語を用いて作成した。

場所 寒河江・天童市役所など



山形新聞のインタビューを受け、新聞を通して山形県全体にやさしい日本語を広めることができた。

寒高祭でのやさしい日本語の使用

※ガイドブックを作成し2、3年生の担当場所に置いてもらった

→相槌のおかげで伝わっているのが分かった
→ときに応じて口調を変えることが大切



外国人のやさしい日本語の感想

難しい表現がなかったため伝わったが **話すスピードが早い**と聞き取りづらい



新庄の日本語教室ボランティアに参加

- ・ジェスチャーの大切さ
- ・笑顔や声のトーンもやはり大切
- 結局はコミュニケーションをとるという基礎的なこと
- ・もっと話したいという気持ち

今泉智子さん(山形大学准教授)

- ・やさしい日本語がなくても気軽に話せるのが理想
- しかし今は日本人と外国人との共通語として必要
- ・やさしい日本語は **お互いの歩み寄りの心**から。

5. 考察

- ・やさしい日本語を実際に使い外国人と話したことで今後の日本における必要性に気付いた。
- ・日本に多くの外国人が来ているが言語の壁を感じ、コミュニケーションを取るのが難しいと思う今の風潮をなくすため、やさしい日本語というツールが重要。
- ・多文化共生を実現させるため、日本人と外国人が食やスポーツを通じて交流する機会を企画し、さらにやさしい日本語を広めていきたい。